資料1

平成29年度第1回協議会の振り返りと今後の方向性について（案）

委員長からの提案　～第1回高齢者生活支援体制整備協議会の総括～

ここでは、**サービス提供の視点からしか議論できていない。**

「地域福祉」という視点から「地域づくり」を考えているが、「想い」がずれている。

住民の方々が本来、自分たちの問題としてどのようにやっていくのかということ。

吹田市では、丁寧に小地域ネットワーク活動を展開してきている中で、最大限そういう形で有償の活動以外での仕組みづくりを検討していきながら、高齢者のニーズに対してどのような形でやっていくのがいいのかを議論してはどうか。

今の吹田市の強みとして、社協の小地域ネットワーク活動やボランティアセンターの取り組みなど、住民参画型の仕組みができていることの強みを活かした活動にしていくことが必要ではないか。

住民の方々が、今この社会の状況の中で、ちょっとした電球を交換するということがニーズではなくて、それは一つの困りごとであって、**本当は「ちょっとごめん。頼むわ。」という言える関係づくりをどう作っていくのか。**

そのことが本来の「我が事・丸ごと」地域共生社会に繋がってくる。

せっかくの吹田市の強みを活かした事業展開を検討していくべきではないでしょうか。

◎第2回の協議会での議論の方向性（案）

第1回の協議会の議論が、「生活支援サービスの受け皿」としての検討となったことを改めて見直す必要があると考えました。

協議会では、**住民相互の助け合いの活動をどのように進めていくのかに立ち返り、「住民同士の助け合い活動」を進めていくために、「新たな活動を作り出す議論」をしていくのではなく、「今ある活動」の活用や拡充をしていくことに重心をおき、検討をしていきたいと考えています。**

第1回協議会では「（仮称）ちょこっとサポーター」の提案をし、課題や問題点を挙げることに取り組んだが、今一度「今ある活動」や「吹田市らしさ」を活かし、「身近なコミュニティでの助け合いの活動」を進めるために各委員から意見をもらい、これからの地域づくりにつなげていきたい。

そこで、今回の第2回協議会では、

①住民の方に「我が事として、自分たちの問題として」どんなことが求められるのか？

地域の中で、助け合いの活動を拡げるためには、どのような取り組みが必要か？

②「今ある活動」を活かして、これから取り組んでいくことはどんなことができるか？

を委員の皆さんと議論を進めていきたいと考えています。